

「平成30年度磯子区運営方針」抽出事業(10事業)の振り返り

施策名	【P】今年度の主な施策等の内容(目標等)	上半期(平成30年4月～9月分) 【D】主な実績	【C&A】現状の課題と対応策等	事業評価委員の主な意見
魅力にあふれた住み続けたいまち	①地域課題解決の場(コスモスミーティング)への支援 ・コスモスミーティングの参加者アンケートで「地域課題解決について議論が出来た」と感じた人の割合 70%以上	◆コスモスミーティングの開催 9地区中 9地区 ◆参加者アンケートで「地域課題解決について議論が出来た」と感じた人の割合 68%	◆自治会・町内会を中心に様々な立場の方に参加していただき、活発な意見交換が行われた。また、出された意見のうち個別に対応できる案件については、その都度迅速・丁寧に対応した。 ◆コスモスミーティングを地域課題解決の場として活用いただけるよう、地域に対して引き続き働きかけていく。	・コスモスミーティングは区長と直接議論でき、地域にとって貴重な場になっている。 ・コスモスミーティングは7月末で各地区終わるが、それに対する回答が10月の区連会になっている。9月の区連会で回答ができれば地域の方々に対してすぐ返答ができるので、ひと月早めることを検討してほしい。 ・早めに回答できるものは早めに、時間をかけてやらなければいけないものは10月にするといった、対応の仕方もあると思う。
ともに支えあい、健康でいきいきと暮らせるまち	②商店街のにぎわいづくり ・商店街朝市の開催 8回 ・商店街の活性化事業をまとめた事例集の作成 9月	◆商店街朝市の開催 5回 ◆事例集の発行	◆商店街朝市の参加店が固定化されつつあるため、商店街のイベントや定例会等で改めて参加を呼びかけた結果、新規の出店希望があった。 ◆事例集を9月に発行した。今後、区商店街連合会への周知及び各商店街への配布を行い、活用いただけるよう案内していく。	・新規の出店希望は、問合せだけでなく、実際の出店につながったことを確認した。
ともに支えあい、健康でいきいきと暮らせるまち	③「子ども食堂」への支援 ・子ども食堂のニーズに合わせた支援 通年 ・子ども食堂ネットワーク連絡会の開催 支援 2回	◆杉田地区の子ども食堂の月2回開催(10月～)に向けた地域への説明や会場調整 ◆磯子事業会との包括連携協定に基づく食材提供や子ども食堂ネットワーク連絡会(7/3開催)を通じた協力内容の調整 ◆児童扶養手当現況届面接時や生活困窮相談時に開催を周知	◆子ども食堂ネットワーク連絡会において、ボランティア自身で課題解決できるように支援を実施した。ボランティアから課題解決に向けて、区や区社協、磯子事業会、磯子区食品衛生協会に支援ニーズを伝えた。また、寄付などの窓口は区社協ということも確認できた。今後は引き続き、運営上の課題について、連絡会にて話し合いを進めていけるように検討していく。 ◆周知に関しては、地域や関係機関には区社協、養育支援家庭には子ども家庭支援課、生活困窮家庭には生活支援課からつないでいく。 ◆寄付については、区社協の善意銀行などをチラシ等で周知を実施する。また、子ども食堂に寄付の集まる仕組みの検討や調整を実施していく。また、食材などの寄付も実績がわかるようにし、地域に支えられている子ども食堂であることを周知していく機会を検討していく。	・杉田地区の子ども食堂が月2回になったことは本当によいと感じる。最初、生活困窮者向けに立ち上げたかと思うが、趣旨が変わってきている気がするとの意見があった。 ・上笹下では、高齢者の方たちが食事後の子どもたちに対して、昔遊びの伝承など、普段触れ合えないような交流が持てているところはとても良い。 ・子どもたちの放課後のあり方が多様化している中で、子ども食堂のあり方というもののがどうなっていくのか気になっている。 ・関係するいくつかの取組をうまく連携していき、本当のニーズはどこにあり、それに対して何が必要か、機能分担をうまくやっていくことが大切であると思う。
	④青少年健全育成施策の充実 ・青少年健全育成指針の啓発講座の開催 3回 ・青少年の地域活動拠点の活用 利用者延べ2,400人 ・地域・関係機関等と南部ユースプラザの連携に向けた取組 3回	◆青少年の地域活動拠点利用者数 1,537人 ◆運営団体職員による南部ユースプラザの移転周知及び事業説明 6回	◆青少年健全育成指針の啓発講座を地域や区内の委嘱団体向けに個別に実施するため、開催日時や場所等の希望調査を行った。 ◆働くことや自立に悩む若者を引き続き支援するためには、生活支援課や他機関との連携が必要である。南部ユースプラザの移転を契機に、より密な連携を図っていく。南部ユースプラザ利用者の自立支援の一つとして、区役所各課における就労体験の受入れについて運営団体と調整を行っている。	・青少年の地域活動拠点では、子どもたちの定期利用が増え、順調に活動できている状況であると思う。 ・青少年の地域活動拠点ができて、利用者も増えてきているが、隣に南部ユースプラザもある。できれば拠点を毎日開けていけてほしい。
	⑤地域包括ケアの推進 ・認知症サポーターの養成 累計15,500人 ・介護予防講座・講演会の開催 80回 ・「エンディングノート」書き方講座の受講者 累計8,700人 ・高齢者虐待の早期発見のための研修会の開催 参加者80人 ・かかりつけ医・訪問看護等の普及啓発のための区民向け講演会の開催 3回 ・地域と行政等による生活支援のための連携・協議の場の開催 10回 ・買い物支援モデル事業の実施 1地区	◆認知症サポーターの養成 累計14,623人 ◆介護予防講座・講演会の開催 54回 ◆「エンディングノート」書き方講座の受講者 累計9,747人 ◆高齢者虐待の早期発見のための研修会の開催 参加者 36人 ◆地域と行政による生活支援のための連携・協議の場の開催 5回 ◆移動販売の実施に向けた地域や事業者との打ち合わせ 7回 、夏祭りでの模擬販売 2回	◆より多くの認知症サポーターを養成するため、下半期に磯子事業会で講座を実施できるよう調整していく。 ◆介護予防講座・講演会は、ハマトレ「みんなのISOGO体操」のリーフレットやDVDだけでは分かりにくいとの声があったので、手順が分かるポスターを作ったところ、充実したものとなった。また、区民活動支援センター等と連携して地区の介護予防講座で主体となって活動する人材の育成を行っていく。 ◆エンディングノートをより広く知ってもらうため、広報よこはまへ掲載し、これまでノートの存在を知らなかった区民にも広くPRを行った。映画上映会等により、7月時点で既に本年度目標啓発数を達成した。引き続き他事業と連携して講座を実施していく。 ◆高齢者虐待の早期発見に向けて、認知症サポーター養成講座の中で研修会を実施した。11月には高齢者虐待防止研修会を開催する。 ◆かかりつけ医・訪問看護等の普及啓発のための区民向け講演会は、11月及び3月の開催が決定し、1件は調整中である。 ◆地域と行政等による生活支援のための連携・協議の場は、地域ケア会議など既存の会議を利用して、引き続き開催していく。 ◆買い物支援モデル事業は、10月からの実施に向けてルート等の詳細を詰めるとともに、引き続き住民に周知していく。	・移動販売は自分で買い物をするということ自体が、介護予防にもなるので、ぜひ継続してほしい。 ・エンディングノートを持っている人は多いが、実際に書き込みをしている人はまだ少ない。書き方がわからない方も多いので、高齢者でもわかるように細かく、丁寧に教えてあげることが必要。 ・エンディングノートに関して、70、80代になってから書くことは大変。早めに呼びかけを行い、PRしていくことが大切である。

「平成30年度磯子区運営方針」抽出事業(10事業)の振り返り

	<p>⑥障害に対する理解に向けた普及・啓発の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 区役所での障害者施設製品販売や磯子事業会等と連携したPRの実施 19回 	<ul style="list-style-type: none"> PRの実施 8回 こすもすショップ実施 5回 自殺対策パネル展の実施 1回 磯子事業会と連携した普及啓発の実施 1回 区内障害施設の自主製品紹介ガイド「いそごでさがそ」の配布 1回 	<ul style="list-style-type: none"> こすもすショップは広報よこはまで毎月周知をしているが、さらなる集客に向けて、他の周知の方法を検討していく必要がある。 「いそごでさがそ」は、区役所1階での配布を中心に、多くの区民に配布ができていますが、より多くの区民に障害のある方の活動を知ってもらう必要があるため、さらに多くの磯子事業会加盟企業に配架を依頼するなど、配布先の拡大を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いそごでさがそ」は周知が非常に重要。ホームページに加え、4000部発行されていることを確認した。
<p>安全・安心で住みやすいまち</p>	<p>⑦地域の防災を担う若い世代への自助・共助の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> いそピヨでの子育て世代向け防災講座の開催 8回 小中学生を対象とした防災授業の実施 6回 	<ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援拠点「いそピヨ」での防災講座の開催 2回 防災授業の実施を各学校へ個別に働きかけるとともに、校長会で周知 2回 	<ul style="list-style-type: none"> 「いそピヨ」での防災講座は、参加者から防災の取組を行うきっかけとなったと好評を得たが、参加者の多くが「いそピヨ」利用者に限られ、また、人数の制約があるなどの課題がある。そのため、区内各所での開催など、より効果的な啓発手法を検討していく。 区役所等による防災授業の機会増加を図るため、生徒達が自ら体験し、気づきを得られるようなメニューを盛り込み、積極的にPRしている。引き続き、現在検討中の学校を中心に個別に調整していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年、地元の小学校で防災授業を行い、継続してやっていこうという話が出ている。
<p>安全・安心で住みやすいまち</p>	<p>⑧地域防災拠点の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域防災拠点訓練の支援 22拠点 拠点を単位とした防災マップ（地域防災拠点防災マップ）の作成 14拠点 地域防災拠点防災マップの訓練等での活用 6拠点 拠点等でのペット防災対策の啓発 延べ15回 	<ul style="list-style-type: none"> 各拠点訓練開催に向けた準備を支援 22拠点 地域防災拠点運営委員向け講習会の開催 1回 地域防災拠点防災マップの作成 14拠点 ペット防災対策の啓発 3回 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災拠点の訓練を、発災時の拠点開設と運営に重点を置いた実践的な内容とする必要がある。10月から開催される拠点訓練の内容がより実践的なものとなるよう、訓練の具体例を示しながら、引き続き参与及び運営委員会への助言、支援を行っていく。 完成した地域防災拠点防災マップが各拠点の訓練やその後の地域防災活動の中で活用されるよう、参与を通じて運営委員会に働きかけを行う。 災害時のペット同行避難の必要性や意義について、飼主だけでなく、拠点運営委員にも理解してもらえよう、委員向け講習会や拠点運営委員会での啓発を継続して行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生は防災において非常に重要な担い手になると感じた。学生も地域の役に立ちたい、地域の役に立たなければいけないという思いを感じている。これからはもっと中学生にいろいろな役割を与えていけたらと思う。 防災情報に関して、外国の方に日本語のマップを示しても理解が難しいと思う。外国語版もあった方がよい。
<p>おもてなしの心による区民サービス</p>	<p>⑨事務処理ミス防止に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 経理事務研修等の実施 6回 コンプライアンス情報を活用した各課での事務処理ミス防止研修会の実施 月1回 	<ul style="list-style-type: none"> 経理事務研修等の実施 6回 コンプライアンス推進委員会での議論内容や事務処理ミス等の情報共有及び意見交換等をすべての課で実施 月1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 責任職が主体となって説明会や研修等を実施し、引き続き日頃の注意喚起を行っていく。また、チェック体制の強化を図るため、区や局が主催する研修等への責任職の参加を促していく。 個人情報管理を強化するため、マイナンバーを多く取り扱う戸籍課において、待合スペースとの境に鍵付きドア、執務室内に二重施錠の書庫を設置し、かつ、マイナンバー取扱エリアの床の色を変更した。 エレベータ運行時間等を変更し、時間外に部外者が自由に出入りできない管理体制とした。 依然として事務処理ミスが発生しているため、原因分析及び対応策を検討し、区内での情報共有を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ミスを改善していくことも重要であるが、民間企業ではよくできている方を表彰するような取組も行っている。磯子区でも同じような取り組みをしているのはよいと感じる。
<p>おもてなしの心による区民サービス</p>	<p>⑩業務効率化による区職員の働き方の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーレスを推進するため、会議室にプロジェクターやスクリーンを整備 4室 ワークライフバランス研修等の実施 4回 各課での夕礼の試行 6月～ 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターの発注手続の完了 ワークライフバランス研修等（10月～12月に4回開催）の実施テーマを決定 すべての課で、当日の振り返りや超過勤務内容の確認、翌日以降の予定の確認等を行う夕礼を試行 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレスを推進するため、整備したプロジェクター等をより多く活用してもらう方法を引き続き検討する。 庁内勉強会をプロジェクター投影により行った結果、紙資料の削減や、修正をその場で行うことで会議後の作業時間が大幅に短くなり、超勤削減につながるなどの効果があった。他の会議での運用も検討していく。 ワークライフバランス研修等について、より働きやすさの向上につながるよう、研修内容を精査していく。 夕礼実施時間に職員全員がそろわない場合もあるため、個別に情報共有を行う等、柔軟に対応する必要がある。また、内部情報等もあるため、来庁者に配慮して実施している。 	